

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：33925

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20060

研究課題名（和文）戦間期イギリス領香港の衛生行政と華人社会－植民地エリートの活動に注目して

研究課題名（英文）Sanitary Administration and the Chinese Community in British Hong Kong during the Interwar Period

研究代表者

小堀 慎悟 (Kobori, Shingo)

名古屋外国語大学・外国語学部・講師

研究者番号：70962413

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、主として以下の二点を明らかにすることができた。第一に、イギリス領香港の「衛生の生権力」が行使される場面においては、現地社会の華人エリート層がその「同意」あるいは「反対」に重要な役割を果たしており、一方で「衛生の生権力」の限界の要因もまた植民地当局と現地社会の双方にあった。

第二に、衛生問題を議論するための合議機関である潔浄局の議員選挙においては、西洋近代医療の専門家であることが「市民」としてのあり方と結びつけられて重要な論点となっており、華人エリートが自らを、「華人社会の代表者」としてだけでなく、近代的な制度における「華人社会の管理者」として位置づけようとしていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、イギリスの植民地であった香港を対象として、現地の華人社会のエリート層が、どのような形で医療・衛生問題に取り組んだのか、それによって植民地という空間の中で自らをどのような存在として位置付け、どのような政治的・社会的権利を主張したのかを明らかにすることができた。これは、近年の近代植民地研究における「近代／西洋／植民者」と「前近代／現地社会／被植民者」という二項対立を超えた議論に貢献するとともに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経験した我々が改めて医療・衛生行政が持つ自由と管理の側面を考える上でも有益となる。

研究成果の概要（英文）： This study shows two significant features of the role of Chinese elites in British Hong Kong. First, the Hong Kong Government had to exercise the "Bio-Power on Health" to improve the sanitary condition with the consent of Chinese elites in the local community. Moreover, the sanitary improvement was limited both by the colonial government and by Chinese elites.

Second, in the election of the members of the "Sanitary Board" during the interwar period, Chinese elites nominated those who was a specialist in modern Western medicine with degrees or diplomas. They insisted that being a specialist was linked to being a "citizen." This meant that Chinese elites sought to identify themselves not only as "representatives of the Chinese community" but also as "surveillants of the Chinese community".

研究分野：歴史学

キーワード：公衆衛生 生権力 香港 イギリス帝国 中国 歴史学 近現代

1. 研究開始当初の背景

医療・衛生問題が本格的に行政の対処すべき公的な課題となるのは、19世紀半ば以降のヨーロッパにおいてのことである。感染症が発生した際の患者の隔離や、都市における劣悪な衛生状況の改善は、しばしば近代的な行政機構が対処することによってはじめて有効となりえるものであった。「生政治」の観点から見れば、こうした行政による医療・衛生問題への対応は公権力による社会への介入である。一方でこうした介入は、それらが人々の生の権利のために必要であることを社会が理解し許容することによってはじめて成立するものでもあった。

ただし、「医療・衛生問題に対する行政と社会との相互理解」という図式が成り立ちえたのは、「西洋近代的」な国家においてだったということも忘れてはならない。特に、アーノルドが「身体の植民地化」という概念を提唱して明らかにしたように、西洋医学、あるいはそれに基づく植民地政府による医療・衛生行政は、支配者である植民地当局からは現地社会を管理する手段としての機能が重視された。公権力による社会への介入が近代世界における共通の特徴であったとするならば、近代の西洋と植民地の最大の相違の一つは、西洋においては介入によって市民が自由を行使する道が開かれたのに対し、植民地においては介入の先に決して現地社会の自由は存在しなかった、という点にあったと言える。

一方で近年、近代植民地研究においてしばしば前提とされてきた「近代/西洋/植民者」と「前近代/現地社会/被植民者」という二項対立の認識に対して疑義が呈されている。例えばクーパーは、現地の人々が自らの政治的権利を獲得するために「近代性」を利用することがあったことを指摘している。これを受けて、植民地を対象とする医療・衛生史研究においても、植民地主義が一貫した象徴的な秩序であるという認識は乗り越えられつつある。ここでは、医療・衛生行政において、現地社会の仲介者による協力が政策決定に影響力を及ぼしていたこと、現地社会の側もしばしば西洋医学を実践していたことが指摘されている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以上のような背景を踏まえて、イギリスの植民地であった香港を対象として、現地の華人社会のエリート層が、どのような形で医療・衛生問題に取り組んだのか、それによって植民地という空間の中で自らをどのような存在として位置付け、どのような政治的・社会的権利を主張したのかを明らかにすることにある。

香港を対象とする理由は、医療・衛生問題に積極的に関与することが、以下の二点において香港の華人エリートにとって重要な意味を持っていたためである。第一に、様々な社会問題の中でも医療・衛生問題は、香港において西洋人住民や華人エリートが植民地統治に関与できる数少ない機会であった。衛生問題を議論するための合議機関である潔浄局(Sanitary Board)の議員の一部は、納税者による投票で選出された。他の植民地のような自治的な地方政府を持たなかった香港において、潔浄局は西洋人住民や華人エリートが代議制機関としてみなすことのできる唯一の存在であった。第二に、医療・衛生問題へ取り組むことは、華人エリートが香港の華人社会への影響力を維持する上でも重要なチャンネルとなってい

た。19世紀末に香港政庁による華人社会への介入が強まる中で、華人エリートは、「西洋的な医療・衛生観」の導入による華人社会の「啓蒙」を自ら担う姿勢を示すことによって、華人社会への影響力を維持しようとしていた。

また、本研究が主たる対象とする戦間期は、華人エリートが西洋人とも下層の華人とも異なる独自の集団意識を確立していく時期であった。例えば、大陸の中国共産党の影響のもと多くの香港の華人が参加した「省港大ストライキ」に対して、華人エリートは香港政庁に協力してストライキの鎮静化にあたることで、その後植民地における政治参加の機会を拡大することに成功した。本研究は、医療・衛生問題への取り組みという観点から、華人エリートが形成した集団意識の具体的な特徴を明らかにすることにつながる。

3．研究の方法

本研究における主たるアプローチは、文献史料の分析である。特に重要となる史料は、イギリス植民地省の香港関係文書(CO129)及び戦間期に香港で発行されていた英字・華字新聞である。戦間期に香港で発行されていた英字・華字新聞の多くは、香港公共図書館のオンライン・データベースにおいて閲覧可能であったため、それらを活用した。CO129については、2023年8月から9月にかけてイギリス・ロンドンの国立公文書館(The National Archives)に赴き、史料調査を行った。

4．研究成果

本研究においては、主として以下の二点を明らかにすることができた。

第一に、香港政庁が実施しようとする医療・衛生政策が機能する上で、華人エリートが果たした役割について。2022年3月に『名古屋外国語大学論集』第12号に掲載された論文「植民地における「衛生の生権力」の射程と限界 近代のイギリス領香港における公衆衛生対策を例として」では、「衛生の生権力」を、「息を吸うこと・飲むこと・食べること・触れること・動くことといった生物としての根源的な活動への介入を通して、人間が「不健康のもと」と「接触」することを防ぎ、「健康のもと」と「接触」することを助け、それらを素により「健全」な身体を作り出すよう促す」と定義した。そして、19世紀末から20世紀前半のイギリス領香港の「衛生の生権力」が行使される場面において、現地社会の華人エリートがその「同意」あるいは「反対」に重要な役割を果たしていたこと、「衛生の生権力」の限界の要因が植民地当局と現地社会の双方にあったことを明らかにすることができた。また、2023年6月に「近代のイギリス領香港における公衆衛生対策「衛生の生権力」という観点から」と題した研究報告を同志社大学人文科学研究所第21期部門研究会第7研究「戦間期における身体・環境への生政治的介入の国際比較」において行い、「衛生の生権力」をキーワードとして、香港の事例を同時代的な文脈の中にどのように位置づけることができるのかについて、様々な地域を対象とする医療・衛生史研究者と議論することができた。

第二に、戦間期の華人エリートが「政治参加」を主張する上で、医療・衛生問題への関心が持った意味について。上述のように、香港の西洋人住民や華人エリートにとって、衛生問題を議論するための合議機関である潔淨局は、一部の議員が納税者による投票で選出されたという点で、数少ない「政治参加」の場となっていた。戦間期になると、華人エリ

ートが潔淨局議員選挙に立候補、当選するようになり、1932年の選挙は、一つの議席を二名の華人候補者が争うという史上初めての構図となった。華人エリートは、立候補者が西洋近代医療を専門とする医師であることを重視し、選挙戦においては西洋近代医療の専門家であることが「市民」としてのあり方と結びつけられて重要な論点となっていた。このことは、華人エリートが自らを、「華人社会の代表者」としてだけでなく、近代的な制度における「華人社会の管理者」として位置づけようとしていたことを意味するものであった。これについては、2024年3月、京都大学人文科学研究所共同研究班「20世紀中国史の資料的復元」において「戦間期の香港における華人エリートと政治参加 潔淨局議員選挙の復元を例として」というタイトルで報告を行い、今後の論文執筆において有益なコメントを得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小堀慎悟	4. 巻 12
2. 論文標題 植民地における「衛生の生権力」の射程と限界 近代のイギリス領香港における公衆衛生対策を例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 85 ~ 110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15073/00001706	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小堀慎悟
2. 発表標題 近代のイギリス領香港における公衆衛生対策 「衛生の生権力」という観点から
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所第21期部門研究会第7研究「戦間期における身体・環境への生政治的介入の国際比較」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小堀慎悟
2. 発表標題 戦間期の香港における華人エリートと政治参加 潔淨局議員選挙の復元を例として
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究班「20世紀中国史の資料的復元」
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------